



置戸出身のスポーツ偉人

全国的に活躍した名選手

昨年は、道都大エースの佐藤峻一投手がオリックスからドラフト2位指名で入団し、置戸町出身者初のプロ野球選手誕生という大変喜ばしいニュースがありました。

今月の当コーナーでは、置戸町史にさん然と輝く記録を残した本町出身のスポーツ偉人たちを紹介します。

笹久保和雄さん（昭和21年生まれ・バイアスロン）
置戸町雄勝出身。昭和40年に陸上自衛隊へ入隊。その後、バイアスロン競技で頭角を現し、昭和47年札幌冬季五輪に出場。男子20kmで38位、4×7.5kmリレーでは第4走を務め8位の成績を残した。初のオリンピック選手を生んだ置戸からは瀧口町長（当時）を陣頭に応援団を編成し「笹久保ガンバレ！」と声援した。また、4年後のインスブルック冬季五輪日本代表にも選出され、男子20kmで各国からの出場者中41位と奮闘。なお、笹久保選手は札幌冬季五輪の翌年、ファミリースポーツセンター利用第一号として、置戸で結婚祝賀会を行っている。

宮井国夫さん（昭和7年生まれ・ラグビー）
北見北斗高校3年時に主将として全国高等学校ラグビーフットボール大会（花園）に出場し準優勝。その後、明治大学へと進み全国制覇を経験。昭和31年に八幡製鉄へ入社。全国社会人大会に6度優勝、日本選手権3度獲得、国民体育大会10回出場、

ラグビー日本代表には大学在籍時代から選出されており、代表11キャップを数える。学生、社会人を通じて、「重タンク」「走る溶鉱炉」のニックネームで活躍。19貫の体躯と100m10秒台の走力で突進し、ウィング宮井として一時代を築いた。

宮井克子さん（昭和20年生まれ・陸上競技）
昭和37年北見北斗高校2年時に、200mで26秒5の北海道高校新記録を出して国体に出場。この年の北海道陸上競技協会優秀選手に選ばれた。翌38年は加盟団対抗陸上で100m、200mにそれぞれ優勝して国体出場を果たす一方、800mリレーで全道高校新記録を樹立。翌39年は社会人となり、勤労者陸上予選会で100m、200mで優勝して三年連続国体に出場。また、同40年には全国勤労者陸上200mで3位入賞。前記ラグビーの宮井国夫さんの妹で、現在は本間克子さん（緑栄）。

（参照：置戸町史下巻、フリー百科事典『ウィキペディア（wikipedia）』）



寒い冬でも 体を動かし健康づくり

「歩くスキー」愛好者 岡部 五郎さん



今年の誕生日で80歳を迎える岡部さんは、営林署を定年退職後、冬期間の健康・体力づくりのために「歩くスキー」をはじめました。以来約20年にわたり、歩くスキーコースのオープン期間はほとんど毎日歩き続けています。「歩くスキーはストックを使うのでよい運動になります。雪景色やコース脇の樹氷などを楽しみながら、冬でも気持ちのよい汗をかけますよ」と、その魅力について語ります。近年、町内の歩くスキー愛好者が減っていることに対し、「寂しい」との声を上げ、「昔はたくさんの仲間がいました。みんなでふるさと銀河線に乗って陸別の大会に出場していたこともありましたが」、当時のことを懐かしみます。若かりし頃は綱引き競技で活躍し、パークゴルフや写真なども趣味に持つ岡部さんは「家の中でじっとしていても体が鈍るだけ。これからも元気な限り続けたい」と、その意欲は尽きません。



愛用のスキー板は薪棚に立てかけられ出番を待ちます